

令和4年7月13日

危機管理室

北九州市防災会議 「避難に関するワーキンググループ」の設置について

【概要】

近年、大雨等による災害が激甚化、頻発化する中、災害時に市民の安全を確保するためには、行政が取り組む公助に加え、避難行動や避難所運営等において、市民の自律的な取組をさらに推進していく必要がある。

また、令和4年4月に改定された内閣府の「避難所運営ガイドライン」では、地域、行政、外部支援者との連携による平時からの取組が重要であるとして、避難所運営体制の強化が示された。

そのため、北九州市防災会議に学識経験者、自主防災組織、防災活動団体、医療・福祉関係者等で構成する「避難に関するワーキンググループ」を設置し、市民の自律的な取組を促進するための方策等について、多様な視点から検討を行うもの。

(検討事項 例)

- ・地域で定める避難所の運営体制やルール等
- ・地域、行政とNPO、ボランティア、医療・福祉関係者等外部支援者との協力体制
- ・市民の避難力の向上

【構成員】

北九州市防災会議委員の学識経験者、防災活動団体、社会福祉協議会、医療・福祉、自主防災組織関係者のうちから選定した者(6名)と区役所、危機管理室の職員(2名)の8名で構成する。

【今後の予定】

7月中に設置し、検討した内容等について、必要に応じて、地域防災計画等への反映を図る。

市内の自治会等における防災に関する地域主体の取組事例

[啓発に関する取組事例]

- 災害に対する日頃からの備えや避難所での過ごし方、家庭における備蓄品の準備などを記載した地域独自の防災ハンドブックや広報紙を作成し、校区で回覧している。
- 地域住民や消防団、大学等との協働による「防災まち歩き」により地域の危険箇所を調査し、地域独自のハザードマップを作成している。

[避難行動支援に関する取組事例]

- 防災士を含めた女性主導の自主防災組織を立ち上げ、避難情報発令時に要支援者、高齢者の送迎等を行っている。
- 災害時の川の氾濫を防ぐため、側溝や河川の清掃イベントを行っている。

[訓練・研修に関する取組事例]

- 地域の社会福祉施設等と日頃から会議や訓練、研修等を行い、顔の見える関係を築いている。
- 校区ぐるみで避難訓練やDIG、HUGなどの研修を行っている。
- 校区の運動会に防災の要素を取り入れた「防災運動会」を行っている。
- NPO法人、消防団、学校法人、行政機関などが連携し、避難所体験や防災グッズの作成、まち歩きスタンプラリーなどを通じて防災知識と技術を身につける体験型イベントを行っている。
- 幼児から高齢者まで参加する消火訓練や炊き出し訓練を行い、高齢者への火災予防啓発や若い世代への防災教育に取り組んでいる。

[備蓄に関する取組事例]

- 校区内の社会福祉施設と避難に関する協定を締結し、施設の非常食や水、おむつなどの備蓄品を利用できる体制を作っている。